

「ワタクシモ ライネンワ ゼヒ イツテミタイト
オモイマス。」

トーキョーワ ニッポンノ ミヤコデ セカイダイニノ
ダイトカイデス。

ワタクシモ トーキョーエ イツテミタク ナリマシタ。

構文

語彙 オキヤクサマ キャクマ オトーシ(シマシタ) チチ

シバラク(デシタ) ゴリヨコー ナサツタ ソーデスネ

ヨース ニギヤカ オドロキ(マシタ) ライネン ゼヒ

(イツテ)ミタイ ミヤコ セカイダイニ ダイトカイ

ミタク(ナリマシタ)

符號

〔教具〕

二 指 導

(一) 要 領

1 客間での挨拶や會話の仕方を修得させるとともに、東京のりつばなありさまと繁榮ぶりを想像させ、それを中心とした話方の練習をさせるのが主眼である。

2 取扱については、繪畫や寫眞についての問答を行つて明確な理解を得させた上に、この敘述や會話に進むといふ順序をたどることが肝要である。分量の關係上、三分して取扱ふこととした。時間も三時間ぐらゐはかゝるであらう。

(二) 問 答

1 復習

○ ぺきんから とうきやうまでの きしや
ちんは いくらですか。

△ くじふに せん はっせんです。(第六頁を参照させて)

○ いくにち かゝりますか。(時間數で答へたら日數に換算し、その距離を想像させる。)

○ きしやは どこを とほつて とうきやうへ いきますか。(地圖を掲げ示して)

△てんしんを とほって (とうきやうへ) いきます。
 ○そのつぎは どこを とほりますか。
 △ほらうてんです。
 ○ほらうてんの つぎは どこを とほりますか。
 △けいじやうです。
 ○けいじやうの つぎは どこを とほりますか。
 △ふさんです。
 ○ふさんの つぎは どこを とほりますか。
 △しものせきです。(答へられなかつたら「下關です。」と教へる。)
 ○ふさんと しものせきの あひだはなんですか。
 △うみです。

○さうです。うみです。
 うみは なにに のって わたりますか。
 △ふねに のって わたります。
 ○さうです。れんらくせんに のって わたります。
 しものせきから なにに のっていきますか。
 △きしやに のっていきます。
 ○こゝは どこですか。
 △おほさかです。
 ○こゝは どこですか。
 △きやうとです。
 ○これは なんですか。(富士山を指して)
 △ふじさんです。
 ○こゝは どこですか。(東京を指して)
 △とうきやうです。(一齊に、また一人々々

に)

○べきんから とうきやうまで いくにち かゝりますか。(道中を指して)
 △よっか かゝります。
 ○さうです。なか／＼ ながい りよかうですな。

2 提示

本課の掛圖を掲げ示して、または本の第四十一頁の繪畫を見させて)

○この こどもは [] さんです。(子供を指して姓を與へる。)
 この おとなの かたは どなたですか。(父を指して)
 △[] さんの おとうさんです。
 ○さうです。[] さんの おとうさんです。
 おとうさんの ことを ちゝと いひ

ます。
 [] さんの ちゝです。
 あちらの かたは どなたですか。
 △おきやくさまです。
 ○こちらの かたは。(父を指して)
 △[] さんの ちゝです。
 ○オキヤクサマ
 と書き、繰返していふ。
 △オキヤクサマ。(一人々々に)
 ○こゝは どこですか。(客間を指して)
 △[] さんの うちです。
 ○[] さんの うちの どこですか。
 △[] さんの うちの(へや)です。
 ○さうです。この へやの ことを きやくまといひます。
 キヤクマ
 と書き、繰返していふ。

いっしょに 行ってごらんなさい。

△キヤクマ。

○□さんの うちへ どなたが いらっ
しゃいましたか。

△おきやくさまが いらっしゃいました。

○□さんは おきやくさまを どこへ
おとほししましたか。(通す身振をして)

△きやくまへ おとほししました。

○きやくまへ どうしましたか。

△きやくまへ おとほししました。

○さうです。きやくまへ おとほしま
したね。(繰返して)

いってごらんなさい。

△きやくまへ おとほししました。(二人
一人に)

○□さんの おとうさんと おきやく
さまは なにを してゐますか。

△おはなしを してゐます。

○さうです。いろ／＼ おはなしを し
てゐます。

□さんは なにを してゐますか。

△かけてゐます。

○かけて なにを してゐますか。

△はなしを きいてゐます。

○さうです。それでは、この 為の こ
とを まとめて 行ってごらんなさい。

△一人一人にいはせる。

△こゝまでのところにつき問答する。

○□さんの おとうさんは 「しばらく
でした。ごりよかう^い なさった さう
ですね。」 いひました。

おきやくさまは 「はい、とうきやうへ
いってきました。」 いひました。

○「しばらくでした。ごりよかう^い なさっ

た さうですね。」

「はい、とうきやうへ いってきまし
た。」

○「ごりよかう^い なさった さうですね。」と
いひました。

どなたが ごりよかう^い なさったので
すか。

△おきやくさまです。

○おきやくさまは どこへ ごりよかう^い
なさったのでせうか。

△とうきやうへ ごりよかう^い なさった
のです。

○□さんの おとうさんは 「とうきや
うの やうすは どうですか。」といひ
ました。

おきやくさまは 「どこへ いても
たいへん りっぱで にぎやかなのに

は おどろきました。」といひました。

□さんの おとうさんは 「わたくし
も らいねんは ぜひ いってみたい
と おもひます。」といひました。(會話
の部分だけを繰返していふ。)

○この シャしんを ごらんなさい。(第
四十二頁の寫眞を見させて)

これは とうきやうの シャしんです。
たいへん りっぱですね。

○これは なんですか。

△うちです。

○どんな うちですか。

△たいへん りっぱな うちです。

○こちらの シャしんを ごらんなさい。
(第四十三頁の寫眞を見させて)

これは なんですか。
△でんしゃです。

○これは なんですか。
 △じどうしゃです。
 ○これは なんですか。
 △ひとです。
 ○さうです。ひとが おほいせい あるいてるますね。
 でんしゃや じどうしゃは。
 △たくさん とほってるます。
 ○さうです。たいへん にぎやがです。ね。
 とうきやうは どこへ いったも りっぱで にぎやかです。
 はじめて とうきやうへ いくと りっぱで にぎやかなのに おどろきます。みなさん、とうきやうの やうすはどうですか。(第四十二、四十三頁の寫眞を見させて)
 △たいへん りっぱで にぎやかです。

○とうきやうへ りよかうした おきやくさまは なんと いひましたか。
 △どこへ いったも たいへん りっぱで にぎやかなのには おどろきました。と いひました。(一人々々に)
 ○□さんの おとうさんは「わたくしも らいねんは ぜひ いったみたいとおもひます。」と いひました。「らいねんは「ことしの つぎの としです。ね。
 みなさん、ことしは ○ねんですから、らいねんは ○ねんに なります。□さんの おとうさんは なんと おっしゃいましたか。
 △「わたくしも らいねんは ぜひ いったみたいとおもひます。」(一人々々に)
 ○どこへ いったみたいとおっしゃいます。

ましたか。
 △とうきやうへ いったみたいとおっしゃいました。
 ○いつ いったみたいとおっしゃいましたか。
 △らいねんは ぜひ いったみたいとおっしゃいました。
 ○さうです。○さんは この 魚のなかの □さんの おとうさんです。
 △△さんは おきやくさまです。いまのはなしを してごらん下さい。
 △二人づつ 指名して 對話させる。
 ○□さんは おとうさんと おきやくさまのはなしを きいて なんと おもったでせうか。
 △□さんも とうきやうへ いったみたくなったでせう。

○あなたは。
 △わたくしも とうきやうへ いったみたくなりしました。(一人々々に)
 ○とうきやうは にっぼんの みやこです。
 △らっぼんの みやこは どこですか。
 △とうきやうは にっぼんの なんですか。
 △とうきやうは にっぼんの みやこです。
 ○さうです。せかいで いちばん おほいきい とくわいは ニューヨークです。その つぎは とうきやうです。
 ○とうきやうは せかいだいの だいとくわいです。
 せかいだいの だいとくわいは ど

こですか。

△とうきやうです。

○さうです。とうきやうは せかいだいにの なんですか。

△(とうきやうは せかいだいにの) だいとくわいです。

○本を開かせ符號をたどらせながらいふ。

(繰返して)

△符號をたどりながらいふ。(一人々々に)

3 總括

教壇の上を客間に見立て、三人の學習者をそこに出し、敘述の部分を挨拶や對話にして實演させる。

が大切である。

(二) 「しばらくでした。」といふ挨拶は、第二十課で學習した「ごぶさたしました。」と同じく、すぐには領得し難いと思はれる。たゞ練習を重ねて漸次その意味を領得させるほかはないであらう。

(三) なほ、「らいねん」「せひ」「みやこ」「せかいだいにの」 だいとくわい等は、適切な事例を擧げて會得を確實にする必要がある。

(四) セカイダイニノは、ニノ意味を強める時はセカイダイニノといふ。

三 備考

(一) 敘述の部分は繪畫により、會話の部分は寫眞によつて理解を十分ならしめること

第二十六課 (第四十四頁)

一 教材

ダイブ オンク ナリマシタ。

モー ジュージスギデス。

コンヤモ ヨク ネムツテ アシタモ ゲンキデ

ガツコーエ イキマシヨ。

「オトーサン、オヤスミナサイ。」

「オカーサン、オヤスミナサイ。」

構文

語彙 ダイブ オンク ジュージスギ コンヤ ネムツテ

オヤスミナサイ

符號

〔教具〕 掛圖(十時十分を指してゐる時計を掛けた□)さんの書齋及び本の繪畫の

廓大圖。

二 指 導

(一) 要 領

- 1 黎明についての言葉に始つたハナシコトバ下の學習が、就褥の挨拶の學習を以て完結する教材排列である。尤も、「おやすみなさい」といふのは、就褥時のほか、夕方や夜分、人と別れる時にも用ひる挨拶であることも併せて修得させる必要があるであらう。
- 2 この挨拶と繪畫とで、日本家庭の温かさが感得せられるであらう。できるだ

(二) 問 答

1 復習

- みなさんは、いつ ねますか。
- △よる ねます。
- いつ おきますか。
- △あさ おきます。
- さん、けさは なんじごろ おきましたか。(一人々に)

け、さういふ氣分にも觸れて取扱ひたい。

△ろくじごろ おきました。

○ろくじまへですか、ろくじすぎですか。

(時計の略畫を板書して)

△ろくじまへです。(または、ろくじすぎです。)

○それは、はやく(おそく) おきましたね。

○わたくしは、しちに おきました。

はやく おきましたか、おそく おきましたか。

△おそく おきました。

○さうです。おそく おきては、いけませんね。

まいにち はやく おきませう。

いま みなさんは、どこに みますか。

△がくかうに みます。(一齊に、また一人一人に)

○じゆげふが、をはると、どこへ、かへ

りますか。

△うちへ、かへります。

○□さん、あなたは、うちで、なにをしますか。(一人々に)

△ふくしふを、します。(または、あそびます。)

○ぼんの、ごぼんの、あとは、なにをしますか。(一人々に)

△ぼんを、よみます。(または、「ぼんごの、ふくしふを、します。」はなしをします。等)

○わたくしは、ぼんの、ごぼんの、あとぼんを、よみます。

さうして、じふじごろ、ねます。

あなたは、なんじごろ、ねますか。(一人一人に)

△わたくしは、○じごろ、ねます。

2 提示

○掛圖を掲げ示して、
このかたは [] さんです。(畫中の子供に姓を與へて)

○このかたは どなたですか。

△おとうさんです。

○このかたは。

△おかあさんです。

○これは なんですか。

△つくゑです。

○これは なんですか。

△ふとんです。

○さうです。ねるとき きる ものです

ね。これは なんですか。

△とけい(ケイ)です。

○いま なんじですか。(時計の針を指して)

△じふじ じつぶんです。

○では、じふじまへですか、じふじすぎですか。

△じふじすぎです。

○さうです。だいぶ おそくなりました

ね。

○ [] さんは どう おもったでせうか。

△ねようとおもひました。

○さうです。「こんやもよくねむって

あしたもげんきでがくかうへい

きませう。」とおもひました。(繰返して

いふ。)

さうして、ごあいさつに きました。

○これは [] さんが ねる まへの

ごあいさつを してゐるところです。

「おとうさん、おやすみなさい。」

「おかあさん、おやすみなさい。」

と いてゐるのです。

[] さん、いってごらんなさい。

△おとうさん、おやすみなさい。

おかあさん、おやすみなさい。

○おとうさんは なんと おっしゃいま

すか。

△おやすみなさい。(または、「おやすみ。」)

○おかあさんは。

△おやすみなさい。

○さうです。 [] さんは いつも ねる

まへの ごあいさつを して ねます

○本を開かせ符號をたどらせながらいふ。

△符號をたどりながらいふ。

3 總括

○ [] さん、あなたは なんじに ねま

すか。

△○じに ねます。(一人々々に)

○それは おそいですね。(または、それは

はやいですね。)

よるは はやく ねむって あさは

はやく おきませう。(それらの身振

をして)

○ [] さん、あなたは よるは はやく

ねむって あさは はやく おきませ

か。

△はい、わたくしは よるは はやく

ねむって あさは はやく おきませ

○ [] さん、あなたは。(一人々々に)

△はい、わたくしも はやく ねむって

はやく おきませ

○ [] さん、あなたは ゆうべ はやく

ねむりましたか。

△はい、わたくしは ゆうべ はやく

ねむりました。

○□さん、あなたは。(一人々に)
 △はい、わたくしも ゆうべ はやく
 ねむりました。
 ○○○さん、あなたは けさ はやく
 おきましたか。
 △はい、わたくしは けさ はやく お
 きました。
 ○□さん、あなたは。(二人々に)
 △はい、わたくしも けさ はやく お
 きました。
 ○みなさん、こんやも よく ねむって
 あしたも げんきで がくかうへ お
 いでなさい。
 ○みなさん、いろく ごあいさつが
 できますね。
 「おはやうございます。」
 これは いつの ごあいさつですか。

△あさの ごあいさつです。
 ○「おはやう。」
 これは。
 △それも あさの ごあいさつです。
 ○「いつてまゐります。」
 これは。
 △がくかうへ いく ごあいさつです。
 ○「さやうなら。」
 これは。
 △うちへ かへる ごあいさつです。
 ○「いつてまゐりました。」
 これは。
 △うちへ かへった ごあいさつです。
 ○「こんばんは。」
 これは。
 △よる あった ときの ごあいさつで
 す。

○「こんにちは。」
 これは。
 △ひる あった ときの ごあいさつで
 す。
 ○「おやすみなさい。」
 これは。

△ねる まへの ごあいさつです。
 ○それだけですか。
 △ゆふがたや よる わかれる ときの
 ごあいさつです。
 ○だいぶ ごあいさつが できる やう
 になりました。ごあいさつは いつ
 も はっきり いひませう。

三 備 考

(一) 「おやすみなさい。」は相手によつて單に「お
 やすみ。」といふ場合がある。事例に即し

(二) て領得させることが必要である。
 練習を十分ならしめるために、總復習を
 することが望ましい。それには、學習者の
 力に應じて、有效適切で興味のある方法を
 案出し、計画的に行ふことが必要である。

附 錄

日本語
教科用 **ハナシコトバ** 編纂要旨

一 目 的

ハナシコトバ是爲使青年男女學習極簡易並且必要的日本的「說的話」起見而編纂的。

人要學日本話有兩種方法：一種是學「說的話」，就是把人家所說的話用耳朵聽的；一種是學「念的話」，就是用眼睛看的。但是學者要領略「念的話」，還是先要學會「說的話」。本書的目的是在學習淺近常用的話，故此，要學習「說的話」。

一 材 料

本書是用基本的「詞類」和「構文」而發表日常的事項。

「詞類」在教科書採用大約六百，在學習指導書也相當的添上。元來基

本的「詞類」要言談圓滑，越多越好，可是，學習的初階不能如此泛論；所以採用尤其重要的「詞類」，叫人自由的運用是要緊的。本書有鑒於此，採用與學者不可缺少的「詞類」。然而要使學者善用「詞類」，不得不教授「構文」。「構文」就是用「詞類」發表思想、感情的一種形式。學習「日本話」最要緊的是學會「詞類」和「構文」，可是「構文」的種類很繁多，若是正確的學會基本的「構文」。學者必能及早熟習「日本話」只要通曉「構文」，「詞類」是可以隨時補足。本書上或者有不合實際的「說的話」，這可是由簡進難的學話的途徑上，必須經過的方法；像這樣的方法，隨着學習的進步漸漸整理。

一 組 織

本書分上、中、下三卷。在上卷最注重叫學者聽得明白用「主語」和「述語」作的「句」，再加上「補足語」乃至「賓語」的程度的話，並養成會說上項程度的「日本話」的能力。在中卷更進一步，教授添加簡單的「附加語」的程度和在上卷還沒有教授過的「表現形式」以及簡單的「複句」；在下卷應用在上、

中兩卷所教授的「表現形式」為主，再比上、中兩卷提高程度稍見複雜。

一 發 音 符 號

本書是為學習「說的話」而作的課本，所以，竟用發音符號。至於用發音符號就算五種方法：(一)用注音符號 (二)用萬國發音符號 (三)用羅馬字 (四)用漢字 (五)用かな；本書決定對於學習的人，借用かたかな作發音符號。本來借用かたかな作發音符號的時候，對於(一)ガ行鼻濁音 (二)無聲化母音等等，總要想表示得精密法子；但是本書為學習要方便和符號要簡略起見，從簡表示。

本書採取「空格式的寫法」，除助動詞和助詞緊連上詞外，其他「詞類」都一一離開以容易學習。

但是借用かたかな作發音符號，最怕學者錯認「正字法」(正當のかたかな的用法)，所以，本書特將字形加以變改以便分明區別。指導者務必用適當的方法，把此等區別叫學者認清是要緊的。

一 教授時間

本書大約得一百五十個小時纔能教授完畢，可是教授的時候，斟酌地方的情形，學習的目的和學習的能力，增減時間也可以。

日本語
教科用

ハナシコトバ學習指導書

下

凡例

一 ハナシコトバ是爲初學日語的人要會說會聽而編纂的。這是在不多的日子，使學會日常生活上必不可缺的應酬話和極簡單的「說的話」而作的課本。指導方法不得其宜，就不能得到完善的效果；所以本指導書和「編纂要旨」都把關於指導學習的要點開列，以供實際指導的參考。

我們日常談話是以音聲爲主；此外，有意識的，或無意識的，用手勢、態度、表情、動作等等，彼此互相傳達思想、感情，並不是竟用音聲構成的；所以初學語言的時候，非用含有此等真相的教材和指導的方法，不足以收完全的效果。本書特注重此點編纂的，並在如此的立場上計劃來作學習指導的。

一 照着前項的主旨，學習指導的方法，先使學者利用身邊的事物或者繪畫了解，然後，用繪畫和符號供作備忘，務期使學者練習得到十分

了解。

一 本書所說的指導方法，只不過是基礎事項。至於在各教授時間，用這基礎事項作為指導內容，而使之成為活教材，應如何發展，如何組織，都俟指導者研究籌劃。若指導內容決定後，第二個問題就是所謂指導程序。

指導程序首先溫習已經學習的教材，再把這項教材用在新教材上頭結合應用，務期學者確實學習。

指導內容和指導程序決定後，更要規定指導方法，籌劃「豫定案」。若是沒有這「豫定案」，就不能完全知道教室裏頭的學習狀態。

指導方法有使學者聽指導者或是別的學者所說的話，所謂「聽法」，或使學者自己說話，所謂「說法」以及指導者和學者或學者們互相「問答」；這幾種指導方法作「基本單位」，把這些方法配合，纔能規定這指導方法。

(1) 聽法 學習外國話的出發點就在「聽法」。要緊的是使學者多聽，更要

聽的正確。

(2) 說法 學習語言，竟聽人家所說的話，那是不能學會的。總要自己積極的說話纔能聽的正確。元來說話和聽話是有離不開的關係；練習說話纔會聽，練習聽話纔會說，這是實情；所以總得使學者得有這兩方面練習的機會。

(3) 問答 平常我們說話是以聽話和說話為主；可是，「問答」是稍微不同，有特別的性質。先說「問答」的特別性質，第一：會話是「生活的」內容的，可是，「問答」是「反省的」形式的；第二：會話是「全人的」知、情、意的三方面都包含在內的，可是，「問答」就是「知的」，所以「問答」是問的人和回答的人都站在對立的立場上，用「形式的問答」的。故此，「問答」是由「聽法」「說法」所學的語言，使學者的確把握那個發音和意思的學習指導法，而且使學者容易應用的；這個指導法的恰當與否，真可以說是決定學習指導的死活。

「指導法」的問答，比較日常會話，難免有不自然的地方，可是這都是內容上的不自然，並不是形式上的不自然。知識的程度和語言的程度不一致的學者，對於語言訓練，總是難免內容上的不自然；所以，總要小心不失日常會話的自然性，並不要背戾語言訓練的宗旨。使學者學習日本話的時候，特別重要的是指導方法。我們學會語言是竟靠環境，我們在父母兄弟和周圍人的周到的顧慮之下，不知不覺的就成爲語言社會裏的人；可是學習外國話是不同的，不是靠環境，要專靠努力研究，在指導者的指導之下，翻來覆去的練習，纔能達到够用的程度。這個時候指導者應當視如嬰兒乍學本國語言時，父母兄弟的態度一般，對於發音腔調的不妥當以及詞類的不恰當，語法的不正確等，暫且不必太嚴，只求達意，單聽他們的不完全的話，也就知道那裏頭的意思，務期一面使學者對於日語覺得親近，一面鼓勵學者說日語的興致和勇氣；總之，必須養成學者要用日語說話的意思。倘

指導者期望學習者的發音用語和文法的正確，指正的太嚴，那麼學者必至敗興喪膽，恐怕學習日語的勇氣都要喪失了！初學時，不要指導的太嚴，而期望將來的成功，這是指導上最要緊的事。

如此，可以鼓起學習日語的興味，養成愛說話的心思，然後，隨着學習的程度，再指改用語、發音、文法，並期望逐漸會話的進步。這兩樣態度，是不能缺一樣的，又不能錯機宜的，不然，就不能指導日語的學習。

一 本書學習指導的方法，不以時間爲單位而計劃的，就是以教材爲單位而計劃的。這是因爲在學習的「時（時候）」所「地方」位（程度）上合式的，而且，可以對付繁簡伸縮。

一 本書的組織基於上述的要旨，各課分置「教材」「指導」「備考」三項；在「指導」上表明學習指導的要領和方法，在「備考」上記載指導的注意。

一 本書也是和上卷中卷一樣，把「かたかな」當發音符號用，這是跟事物

和繪畫一樣，不過是一種教具，用這個練習詞類和文法。至於實在的指導，總要在眼前的事實出發，當發音符號的「かたかな」是應當限於備忘。

一 本書上所記載的問答和教科書上的話，都是比平常的說法稍微不同，可是，這也是由於語言訓練上必不得已的事。

一 本書上的各課，特意的記載「指導計劃」；是在各教材的「說的話」的學習上，必要用的「問答」，所以，指導時，須看學者的力量，學習的地方以及學習的時候，斟酌添除，務期相宜是為要緊。

一 本書上所記載的「補充語」，限於教材的示知和學習上不可缺少的語詞；所以，斟酌學班的大小，學生知識的程度以及別的理由；學生的學習能力上，如有餘裕，本書上所記載以外，宜須選擇恰當的「詞類」補足，以圖「詞類」的增加，但是，在這時，總要選擇基於教材和環境的「詞類」纔好。

日本語
教科用

ハナシコトバ

下 華語譯

- | | | |
|-----|---|--|
| 第 一 | 頁 | 東方的天空發白了。太陽快出來了吧！ |
| 第 二 | 頁 | 我們吃早飯哪。都有笑容。 |
| 第 三 | 頁 | 練起體操來了。一二三四五六七八。成人和小孩子練的都有精神。 |
| 第 四 | 頁 | 到了該上學的時候了。「爸爸！我要走了！」「媽！我要走了！」我們上學校去了。 |
| 第 五 | 頁 | 先生來了。我們跟先生問安。「老師！早啊！」先生也說了一句：「你們！都早啊！」 |
| 第 六 | 頁 | 從東京路過奉天到北京。到北京的火車票價是九十二塊零八分。若是兩個人去，要多少錢？ |
| 第 七 | 頁 | 雪子絹子和正子跳繩子玩兒哪。現在雪子跳着哪。一回 兩回 三回 四回 五回 六回 七回 八回 九回 十回。 |
| 第 八 | 頁 | 放了學了。和先生告辭了。「老師！再見再見！」「大家！再會再會！」 |

第九頁 許多鋪子並排着哪。許多人走着哪。許多的電車和汽車都走着哪。

第十・十一頁 女子買襪子哪。「這是多少錢？」是八毛五。「那麼，就要這雙吧！」

第十二頁 女子給了錢了。鋪子裏的人，收下了錢，說了一句「謝謝！」有許多的羊。鬃佛是綿花團似的。都吃着草哪。狗在那周圍走着哪。那是看着羊的。

第十三頁 麥子黃了。是一望無邊的黃麥田。一颯風就剝剝的響。遠處看見有兩三家房子。天上一點兒雲彩都沒有。

第十四・十五頁 大河流水哪。有種種的船來來往往的。在對岸的是工廠。看見高煙筒。黑煙冒的很盛哪。

第十六・十七頁 火車過鐵橋哪。呼嚕呼嚕的響着走哪。小孩子在河岸上，叫「萬歲！」「萬歲！」。我唱了在学校裏學的火車的歌了。

第十八・十九頁 「現在走山裏，現在走海邊，一晃兒過鐵橋，早穿過了漆黑的山洞，走到了曠野了。」

「遠看見村舍的房頂，近看見街上的房簷兒。大樹林子啦，小樹林子啦，水田啦，旱地啦，都往後退着跑去哪。」

第二十一・二十一頁 這裏是火車站。許多人並列着哪。那都是要坐火車的人。這邊還有買票的。火車快要到了！

第二十二・二十三頁 黑雲彩布滿了天空了。颯起一陣風來了。滴搭滴搭的下起雨來了。

打了一個閃了。呼嚕呼嚕的打起雷來了。暴雨漸漸的大起來了。

第二十四・二十五頁 雨住了。太陽照起來了。由隔壁兒的院子裏，聽見有男孩子和女孩子的聲音。「出了虹了！」「在那兒呢？」「在那兒哪！」「啊！好看哪！」紅的，黃的，綠的，青的，紫的等等的七種的顏色，都看得很清楚。

第二十六・二十七・二十八頁 太郎和雪子用玩藝兒的電話打着玩兒哪。雪子給醫生打電話哪。太郎當醫生。「喂喂！齋藤先生嗎？」是，不錯！「我是田中。小孩子着了凉了。請您給看看吧！」「發燒嗎？」「有三十八度」那麼，這就去！「奉懇奉懇！再會再會！」再見再見！

第二十九・三十頁 老沒給您請安。諸位都好啊？我的一個在張家口住的叔父，要到我家來。您若是有工夫，後天晚上請到我家裏來！我們聽一聽蒙古的希奇的話！

第三十一・三十二・三十三頁 到了黃昏了。西方的天空通紅哪。小孩子唱晚霞的歌兒哪。
「晚霞 晚霞 太陽落，山寺的鐘聲響了響，手拉手一同回去吧！跟烏鴉一同回去吧！」

「小孩子回去之後，出了好大的月亮。小鳥做夢的時候，天上有閃閃的金色的星星。明天一定也是好天氣吧！」

第三十四・三十五頁 請看看這個像片！這是富士山。戴着白淨的雪，聳立在雲間，多麼可觀的山容！富士山是世界第一的山。

第三十六・三十七頁 那邊的人家和這邊的人家，都有太陽旗飄揚着哪。走路的人都說「新喜新喜！」同喜同喜！狗也髣髴喜歡似的東跑西跑。今天是新年。

第三十八・三十九・四十頁 女孩子拍毬子哪。都穿着漂亮的衣裳哪。在那邊，男孩子放風箏哪。

「風箏 風箏 起來吧！迎着風 到雲間去吧！到天上去

吧！」

「畫風箏，字風箏，都不要輸，到雲間去吧！到天上去吧！」
「噯唷 噯唷！要下來了，扯扯線吧！噯唷噯唷！起來了，不要放線！」

第四十一・四十二・四十三頁 客人來了。我把客人讓到客廳裏坐了。家父和客人談種種的話哪。「老沒見了！聽說您出外去了。」是，上東京去來着。「東京的情形怎麼樣？」到那裏去，都很可觀，而且很熱鬧，實在叫我吃了一驚。「我也打算明年要去一邊。」

東京是日本的首都，算是世界第二的大都會。我也想要上東京看看去。

第四十四頁 天不早了。已經過了十點鐘了。今夜也好好兒的睡覺，明天也高高興興的上學校去吧！「爸爸！請安歇吧！」「媽！請安歇吧！」

注意：在日本教師喚叫學生的時候或者學生們彼此喚叫的時候，大概學生的姓或名字底下都添「サン」或「クン」而一面表示尊敬，一面表示親密；可是本書當翻譯之際，照着中國的習慣都省略了。

昭和十七年二月十五日印刷
昭和十七年二月十九日發行

日本語教科用

ハナシコトバ學習指導書 下

◎定價 壹圓五拾錢

不許複製



發行者

東京市麴町區霞ヶ關三丁目四番地

日本語教育振興會

代表者 林博

東京市芝區芝公園十二號地ノ一

大日本教化圖書株式會社

代表者 川口芳太郎

東京市麴町區霞ヶ關三丁目四番地

日本語教育振興會

發行所

電話銀座(57)八四五〇番

工-9/14-87

工-9/14-87

工-9/14-87

工-9/14-87

工-9/14-87

工-9/14-87

工-9/14-87

終